

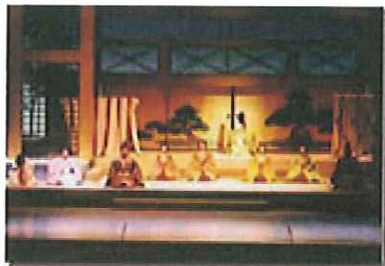
鹿野ふるさとミュージカル・プロフィール

鹿野町民音楽祭実行委員会

昭和62年、「多数の地域住民の参画により、新たな地域の文化を創造しよう。」と、鑑賞型だった音楽祭を市民参画型のミュージカルの制作公演の場として再構築。以来、四半世紀継続して取組み「鹿野ミュージカル」として定着しつつある。

活動創始期より音楽祭を通じて親交のあった中野潤二氏（宝塚歌劇団音楽家）のネットワークに助けられ、宝塚歌劇団の演出家、菅沼 純(故人)、大関弘政両氏と出会い、彼らの全面的な協力を得て鹿野地域の伝説等を題材にした5つのオリジナル作品を順次制作・上演している。

出演者・スタッフは、地域内に設備やノウハウがない音響照明やかつら等を除き原則公募しており、年平均150人前後の市民が、役者、コーラス、オーケストラ、スタッフとして参画する地域的一大イベントとして成長を遂げてきている。



鹿野ふるさとミュージカルの代表作品「さくら姫物語」

昭和62年8月、音楽とコーラスそしてナレーター・・・ミュージカルというにはほど遠い舞台でしたが、新しい何かが生まれようとするエネルギーがまちに満ち溢れた真夏の一夜、小さな町の体育館は1000人を超える住民の熱気に包まれました。

脚本：菅沼 潤 / 音楽：中野潤二 昭和62年初演



鹿野城のエピソードをリアルに再現！「踊り見の城」

この作品は、「亀井踊り」（無形民俗文化財）の口承に基づき創られた物語です。私たち住民が心の奥底に秘めていた「誇り」をステージにありありと再現したものであり、鹿野ミュージカルの次なるステップアップに着実に歩みだすことができました。

脚本：大関弘政 / 音楽：中野潤二 平成4年初演



ミュージカルという新しい祭づくり「鹿野に祭りが蘇る日」

鹿野祭は鹿野城主亀井氏のお国替えとともに中断されますが、江戸時代、かつての賑わいを取り戻そうと立ち上がった町民によって再興され今に続いています。

「鹿野に祭りが蘇る日」には、新しい祭（ミュージカル）を創り出したいというわたしたちの熱い思いが重なっています。

脚本：菅沼 潤 / 音楽：中野潤二 平成7年初演



アマチュア新人作曲家を迎えて「鹿野の蒼白い夜」

この物語の舞台”蛇ヶ池”（じゃあがいけ）は、鹿野町の最南端、河内（こうち）にあります。ブナの原生林など豊かな自然に包まれています。かつて、良質の樹木を求め京都から木地師の一団が移り住んだとも云われています。鳥取で活躍しているアマチュア作曲家を迎えて制作した作品です。

脚本：菅沼 潤 / 音楽：上萬雅洋 平成11年初演



鹿野ミュージカルの集大成「鹿野にはかっぱやまどりくもの糸」

鹿野城主亀井公が菩提寺とした「讓傳寺（じょうでんじ）」は、因幡国の曹洞宗の本山で、鹿野温泉の南西端にあります。そして、どの川がそうだったのかわかりませんが、お寺の近くの川淵には、人々をひどい日照りから救ってくれた「河童」が棲んでいたと伝えられています。

脚本：菅沼 潤 / 音楽：上萬雅洋 平成14年初演

- | | |
|------------|----------------------------|
| 昭和57(1982) | 鹿野町民音楽祭実行委員会設立 |
| 62(1987) | 第1回公演(さくら姫物語) |
| 平成 6(1994) | 第8回公演を県民文化会館梨花ホールで実施 |
| 8(1996) | ミュージカルガサミット開催(磐田・新田・天川等来県) |
| 9(1997) | 自治大臣表彰受賞(地域づくり優良団体) |
| 13(2001) | 第15回記念公演を倉吉未来中心大ホールで実施 |
| 16(2004) | 鳥取市文化賞受賞 |
| 18(2006) | 第20回記念公演を県民文化会館梨花ホールで実施 |
| 23(2011) | 第25回記念公演・新作ストーリー募集事業着手 |
| 25(2013) | 新作「アユタヤにはじけて候」初演 |

活動年表